総合的道徳教育プログラム

平成24年度いのち輝く子どもを育てる道徳教育フォーラムのご報告

Gakugei

多数のご参加，ありがとうございました。

２月 15 日（金），本学「総合的道徳教育プログラム」推進プロジェクト主催の上記フォーラム（東京都教育委員会及び小金井市・小平市・国分寺市教育委員会後援）が開催されました。当日は不安定な天候にもかかわらず，東京都や近隣三市の家庭・地域の方々，教育関係者，学生等を中心として，全国から約２５０名にご参加いただきました。その概要を以下にご報告します。

フォーラムは，「家庭・地域と各学校・大学が共に考える　いま　求められる　心の教育」をテーマに午前から午後まで幅広い内容で実施されました。午前に大学の「道徳教育の研究」の模擬授業，午後の前半は，附属大泉小学校の５年児童と教諭による「道徳の時間」の公開授業が行われました。また，並行してプロジェクトで開発した道徳用教材が複数の教室で展示されました。午後の後半には，「連携シンポジウム」として，「子どもの心の危機をどう乗り越えるか」をテーマに，地域代表や近隣市の学校長等をシンポジストに迎え，現在の課題に対峙するための議論がなされました。

終了時刻の午後５時まで活発な協議が展開され，当日のシンポジウムの様子は，翌 16 日（土）のＮＨＫ朝のニュース「おはよう日本」の中で紹介されました。

模擬授業　大学の授業「道徳の指導法」を体験して語ろう

10:00～11:45　S410 教室

●開会挨拶		佐藤　郡衛（東京学芸大学副学長）
	コーディネーター	北詰　裕子（東京学芸大学）
●模擬授業「道徳の指導法」	授業者	永田　繁雄（東京学芸大学）
●話題提示・質問協議		
●講評・まとめ	コメンテーター	林　泰成（上越教育大学教授）

模擬授業では，①なぜ道徳教育が必要なのか，②道徳の時間では何を教えるのか，③子どもが夢中になる道徳授業をつくるには…について講義が行われました。その後，コメンテーターの林先生より，「他の大学でも授業内容は同じなのか」「他の大学教員でも可能な授業なのか」という２つの論点が提出され，議論が行われました。

教材展示　東京学芸大学で開発した道徳用教材に触れよう

11:00～15:00　S401･402 教室ほか

本学の総合的道徳教育プログラムの各ワーキングで開発した道徳用教材の中から，いくつかを複数の教室で展示し，活用の普及を図りました。昼の休憩時間（11:45 ～ 13:00）には開発担当者が説明や演示などを行いました。

公開授業　学校の授業「道徳の時間」を見て考えよう

13:00 ～ 14:45　S410 教室

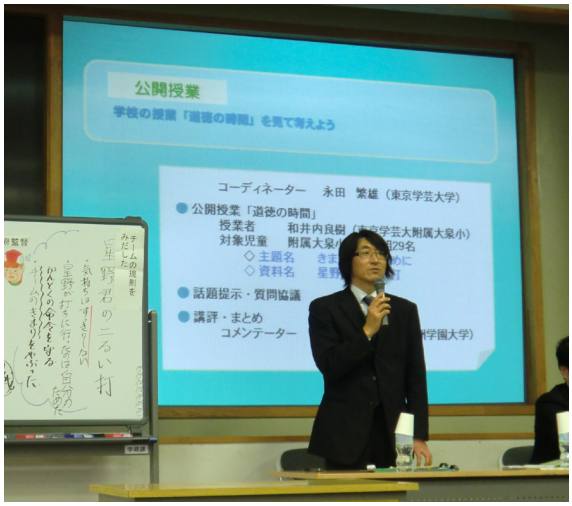
	コーディネーター	永田　繁雄（東京学芸大学）
●公開授業「道徳の時間」	授業者	和井内良樹（東京学芸大学附属大泉小学校）
	児　童	東京学芸大学附属大泉小・５年きく組 29 名

主題名：きまりは何のために（規則の尊重）

資　料：「星野君の２るい打」

●子どもたちにインタビュー・質問協議

●講評・まとめ	コメンテーター	生越　詔二（元八洲学園大学教授）



午後の前半は，附属大泉小学校の５年児童と教諭による「道徳の時間」の公開授業が行われました。授業の終了後，コーディネーターと生越先生による子どもたちへのインタビューが行われました。児童の退席後，授業での子どもの振り返りの位置付け，ルールのとらえ方，発問の組み立て方などについてフロアー全体で話し合われました。

連携シンポジウム　子どもの心の危機をどう乗り越えるか
私たちが今，できること　なすべきこと

15:00～17:00　S410 教室

●学長挨拶　　村松　泰子（東京学芸大学学長）

コーディネーター　松尾　直博（東京学芸大学）

●シンポジウムの趣旨の説明

●私はこう考える（各シンポジストから）

シンポジスト　阿久根謙司（東京フットボールクラブ＜ＦＣ東京＞代表取締役社長）

雀部かおり（東京都小金井市食育推進会議委員）

古家　義伸（小平市立花小金井小学校長）

重松　　靖　（国分寺市立第三中学校長）

小森　伸一（東京学芸大学）

●意見交流・まとめ

午後の後半には，「連携シンポジウム」として，「子どもの心の危機をどう乗り越えるか」というテーマのもと，地域代表や近隣市の学校長等をシンポジストに迎え，現在の課題に対峙するための議論がなされました。

まず，村松学長の全体に向けた挨拶の後，コーディネーターより，シンポジウムの趣旨として「現代の子どもを異なる立場，異なる視点から見つめ，語り合う重要性」について説明が行われました。

続いて，各シンポジストの発表があり，阿久根氏からは，子どもたちの「自立」を引き出すために私たち大人自身の子どもに対する接し方を見直す必要性が，雀部氏からは，親として食育てを通して子育てを，さらには親育てを進めることの大切さが提言されました。また，古家氏からは，環境の変化に対応しながら豊かな心を育てるために学校と家庭に求められる取り組みについて，重松氏からは，子どもの自己肯定感や自尊感情を「関係の中の自己」を通して高める取り組みについての発表がありました。さらに，本学教員の小森は，各学校と連携したこれまでの取り組みの事例に触れながら，体験活動の専門的知識が得られる研修体制の充実を図ることの大切さなどについて提言しました。

その後，終了時刻の午後５時まで，提言に対する具体的な質問が相次ぎ，活発な協議が展開されました。

当日いただいたアンケートから（一部の概要）

当日は，学校教育関係者，本学関係者，また，ＰＴＡや地域・団体の方々などから，ご参加の感想とともに，本プログラムへの貴重なご意見を多数いただきました。今後の充実に向けて，活用させていただきます。ご報告の最後として，その一部をお礼とともに紹介いたします。

＜全体・教材展示について＞

- 中学校で社会科を担当している。社会科の中でも道徳的価値とかかわる内容があることが分かった。一人の人間を社会科としても道徳でもどのように育てたいのかを考えたいと教材展示を見て思った。
- 今回は今までにない企画で興味深かった。林先生のご提言のように，全国の教育大学で使えるよう，広めていっていただきたい。
- 子どもが，自己肯定感をなかなか持てない今，ありのままの自分を受け入れ，より成長しようと思える状態になるよう何とか支援できればと思った。
- それぞれの予定時間に従った進行があればと思った。休憩が少なくやや不自由な感があった。

＜模擬授業について＞

- 現場の教員としては，やはり話をきくだけ，計画を立てるだけでは指導法にならない。「授業を見ること」が大切。ぜひ学生に実際の道徳の授業を見せてやっていただきたい。
- 内容が現職の教員研修にも生かせると感じた。特に若手教員が増える現状から，研修の見直しやその在り方への参考になる。
- 話題になった資料について学習指導案の例などもあると，さらに分かりやすいと感じた。
- 学生に戻って，もう一度「道徳教育の研究」を学びたいと思った。大学の先生方が持つ情報や知識などを現場の教師が手に入れやすくなるとよい。ＨＰがそのような役割を果たすのだろうか。

＜公開授業について＞

- 意見の言い方や内容，つなげ方をしっかりやってあるという感じがした。「もっと言いたい！」という感想に驚いた。自分たちで価値観を見つけて考えて，発表しているのが印象的。
- 一時間の授業の中で，どの子にもねらいを達成させることは難しい。授業者は生活の中で，日々，継続して指導していくことが必要だと感じる。
- モラルジレンマが起こる内容で子どもたちの素直な心の内側が見られる内容だった。今一つ自分の心に落ちなかったが，そんな内容の価値項目なのだと改めて実感した。
- 子どもたちがまとめているようすもカメラ・モニターなどで見られるとさらによいと思う。

＜連携シンポジウムについて＞

- 自立できない子，コミュニケーションが苦手な子が最近特にふえている。いろいろな立場からのアドバイスを，今後の教育に生かせるようにしていきたい。
- ヒントをたくさんいただいたがモヤモヤも残った。子どもの心は折れやすく，細い。どうしたら子どもの自尊感情を高められるか，じっくり考えていきたい。
- 子どもたちの豊かな心を育むために，大人の在り方が重要であることをあらためて感じた。教員は特に一人の人間として人間力を高めていくことが求められていると思う。
- 親として，地域の大人として本当に子どもを育てるための見守りや接し方について考えさえられた。まずは自分の成長を心がけたいと思う。

文責：柄本健太郎　構成：荻原香織